

令和 4 年 6 月 15 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19K00466

研究課題名（和文）二十世紀フランス文学における散文の研究 経験とその表現

研究課題名（英文）A study of prose in twentieth-century French literature: experience and its expression

研究代表者

塚本 昌則 (Tsukamoto, Masanori)

東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・教授

研究者番号：90242081

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：二十世紀、小説・抒情詩・演劇という文学の主要カテゴリーは解体されていったが、書くという行為そのものは衰えなかった。この時代の作家たちは、精神分析、人類学、言語学等の新たな人間認識をもたらした学問を積極的に吸収し、さらに身体論やイメージ論等、哲学、社会学、美術史学等のさまざまな学問領域で検討された問題意識を共有し、相互に影響を与えながら執筆活動を行った。どのような視点から見れば、作家と思想家・哲学者等の区別を取り払い、この時代の文学を総合的に把握することができるのだろうか。さまざまな領域の研究者と対話することで、文学と人文知という一見異なった思考スタイルの境界に何があるのかを探った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究を進めた結果、現実と虚構のせめぎあい、文学と人文学を総合する地平線を考えるうえで重要だという認識に達した。捉えようとする現実と、現実を迫るための方法（虚構）がいかに多様な形を取り得るのか、この視点を獲得したことで、二十世紀文学を捉えなおすひとつの基礎を築くことができた。小説・抒情詩・演劇という従来のカテゴリーによらず、精神分析、人類学、言語学等の人文科学の重要作品を視野に収めた文学史はまだ書かれていない。そのような文学史の展望が得られれば、この時代、文学に起こった地殻変動への認識を広く社会に訴えることができるだろう。今回は、そのような文学史再構築のための大きな手がかりを得た。

研究成果の概要（英文）：In the twentieth century, the main categories of literature - the novel, lyric poetry and drama - were being dismantled, but the act of writing itself did not decline. Writers of this period actively absorbed disciplines such as psychoanalysis, anthropology and linguistics, which brought about new perceptions of the human being, and they also shared and influenced each other in their writing by examining the issues treated in various disciplines such as philosophy, sociology and art history, or theories of the body and of the image. From what perspective can we remove the distinction between writers, thinkers, philosophers, etc. and grasp the literature of this period in a comprehensive manner? By engaging in dialogue with scholars from various fields, we explored what lies at the boundary between the seemingly different styles of thinking - literature and humanistic knowledge.

研究分野：フランス文学

キーワード：文学 人文知 フィクション論 フィールドワーク 無意識

1. 研究開始当初の背景

二十世紀フランス文学を全体として展望するとき、小説・抒情詩・演劇という、十九世紀に創造力の頂点に達したカテゴリーにしたがって記述することはできない。この時代の文学史を記述するためには、フーコーの『狂気の歴史』・『言葉と物』、レヴィ＝ストロースの『悲しき熱帯』・『野生の思考』、メルロ＝ポンティ『知覚の現象学』・『見えるものと見えないもの』、ドゥルーズの『差異と反復』・『シネマ』、デリダ『根源の彼方』・『哲学の余白』、ラカン『エクリ』、ソシュール『一般言語学講義』、バンヴェニスト『一般言語学の諸問題』等の著作をふくめる必要である。こうした作品がエピステモロジー、人類学、哲学、精神分析学、言語学など、それぞれの学問分野での達成としてだけでなく、この時代にフランス語で書かれた散文が目指そうとした文学のあり方を体現していることは確実である。文学は、十八世紀文学においてフィロゾフたちが政治パンフレット、宗教上の議論、大航海の旅行記を書き、法学、美学、国家論、社会科学等の学問の確立を目指したのと同じように、小説・抒情詩・演劇というジャンル分けでは捉えきれない広がりの中で、同時代の社会の現実を把握し、歴史の流れを認識し、人間が置かれた状況を語ろうとしたのであり、そこにどのようなエクリチュールの運動が渦巻いていたのかを把握することが、今後の二十世紀文学研究の大きな課題となるだろう。人間をどのように描くのか、という文学の根本的な問題を、既存のカテゴリーにしたがって論じるだけでは、この時代の文学を理解するためにあまりに不十分である。

しかし、ランソンやブリュンチエールによって十九世紀末に整備された文学史の枠組みを拡張し、二十世紀の現実によりかなった形で文学概念を再構築することはあまりに巨大な企てであり、一気に実現することは難しい。『悲しき熱帯』ひとつを取りあげても、「旅といい、探検家といい、私の性にはあわない」というきわめて個人的な感慨を前面に押し出した文体だけを問題にするだけでは十分に論じきれない。カドゥヴェオ族の顔の塗装、ポロ口族の権力の分配等を通して、レヴィ＝ストロースが明らかにした「神話」や「構造」等の分析に立ち入り、そこで人類学者が人間の本質をどのようなものと考えたのかを問題とし、それを二十世紀全体の文学史の中に位置づけることができなくてはならない。そのためには、上記の作品の特性を分析するだけでなく、そこで論じられる事柄が、小説・抒情詩・演劇という従来の「文学」とどのように関わるのか、どのような視点から見れば二十世紀に躍動した知的創造力のエネルギー、想像力の芸術的形象化を導いた力線を掴み取ることができるかを考えなくてはならない。これは壮大な試みであり、その目標に到達するためには、迂回路をいくつも設定し、徐々に接近しなくては達成の見込みは得られないだろう。

2. 研究の目的

文学と人文科学と分けられている知的活動が、どのような共通点をもっているのか、どこから分岐していくのかを見極めることが目的である。ただし、人文科学とひと言で言っても、そこに含まれている諸学問の成り立ち方は大きく異なっている。例えば、精神分析については、この学問によって文学のどのような解釈が可能となるのかという問いだけでなく、精神分析にとって文学とはなにかという問いも立てられている(山田広昭「テキストの無意識はどこにある——精神分析批評」、丹治愛編『知の教科書 批評理論』、講談社、2003年)。精神分析の成立そのものに、文学作品が深く関わっているためである。それに対して人類学におけるフィールドワークは、文献学と並ぶ人文学の方法として知られている。文学批評、そして文学の実践にこの方法論がどこまで適用できるのかが問われるべきだろう。それぞれの学問と文学との関係は異なっていて、そこに一般論は成立しない。

人間と世界を認識する手法において、文学と人文科学どのような地平線を共有しているのだろうか。この疑問を解明するため、出発点として、人間の「経験」がどのようなものとして認識され、その認識がどのように言語化されたのかという問題を検討した。二十世紀文学の大きな特徴として、自分の経験したことを物語るができないという感覚がある。ベンヤミンは「経験の貧困」で、戦場から帰還してくる兵士らが押し黙ったままであることを強調した。あたりにみちているのはショックの連続、同化できない暴力のうずまく世界であり、出来事を経験という形で消化できないことが常態となっている。その一方で、これは主観効果が隔々にまで浸透した時代でもある。どれほど卑小なものになっても、われわれは自己を通してしか世界を体験することができない。自分自身の生を統括し、いろいろな価値を決定するのはこの私だということは、私の地位が決定的に凋落したのと同じほど確実なことである。二十世紀の作家たちが直面した状況は、この視点からみれば次のように要約できる。世界は私を通してしか経験できない、たとえその私 がどれほど取るに足らない存在であったとしても。

このような問題意識は、精神分析、人類学、哲学、身体論、イメージ論等々の学問において、どのように認識されたのか。従来の人間観では捉えきれない混乱のなかで、人々は経験というものがどのように認識し、創造したのか。この問いを深めていくことで、最終的に二十世紀フランス文学を総括する視点のひとつを築くことが当初の目的だった。

3. 研究の方法

文学研究の基本は、文献調査とテキストの読解以外にはない。本研究では、さらに文学と人文科学の境界を探るため、異なった学問分野の専門家との対話を重視した。人文科学の研究者、文学研究者、そして二つの領域を横断する研究者との対話を通して、新たな文学概念の構築を目指した。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、途中から対面で研究会を開催することができなくなった。ただ、オンライン研究会が可能となり、一時的な中断を経た後では、逆に活発に研究会を開催することが可能となった。鈴木雅雄氏（早稲田大学／シュルレアリスム研究）に協力を仰ぎ、「人文知」研究会と題する研究会を以下の形で開催、次の先生がたにお話をうかがった（敬称略）。

第1回：箭内匡（東京大学／人類学）「イメージの人類学」2019年7月1日（東京大学文学部）

第2回：廣瀬浩司（筑波大学／フランス哲学）、立木康介（京都大学／精神分析）「無意識と文学」2019年10月12日（東京大学文学部）

第3回：久保昭博（開催学院大学／フィクション論）「フィクション論と文学」2019年11月22日（早稲田大学文学部）

第4回：森元庸介（東京大学／表象文化論）、松井裕美（神戸大学／美術史学）「イメージの歴史と文学」2020年10月17日（オンライン開催）

第5回：橋本一径（早稲田大学／表象文化論）、伊藤亜紗（東京工業大学／ヴァレリー、身体論）「身体論の展開」2021年5月29日（オンライン開催）

第6回：王寺賢太（東京大学／デイドロ、現代思想）「歴史とユートピア」2021年7月20日（オンライン開催）

第7回：中田健太郎（静岡文化芸術大学／ブルトン、マンガ研究）、森田直子（東北大学／テプフェール、マンガ研究）「支持体について」2021年10月23日（オンライン開催）

第8回：郷原佳以（東京大学／ブランショ、デリダ）、塩塚秀一郎（東京大学／ペレック、日常生活研究）「文学を問う知／知を問う文学」2021年12月18日（オンライン開催）

第1回目から第4回目までの研究会については、対談部分を活字化し、ネットで公開している。この研究会を発展させる形で、2023年秋を目標に、現在今回の研究の書籍化の作業を進めている。

4. 研究成果

研究会を重ねるにつれ、現実と虚構のせめぎあいについて考える、という視点が重要になってきた。捉えようとする現実と、現実に向けるための方法（虚構）がいかに多様な形を取り得るのか——これこそが文学と人文科学の境界に広がっている光景ではないだろうか。虚構には、偶然に開かれ、知的に解析できない、微細な身体感覚に根ざした方法という側面がある。その方法を通して初めて明らかになる現実がある一方、現実にはその方法をつねに逃れていく部分がある（同じことは、一定の変更を加えるなら、イメージと現実の関係にも当てはまる）。虚構を通して現実をさらに深く見ようとする姿勢と、そこに言葉にならない、捉えがたい現実があるという感触が絡みあうことで、人文知も、文学という思考のスタイルも展開されるのではないか。

他方では、フィクションやイメージが現実に通じ、ある意味ではそれを作り出しているといった側面がある。とりわけイメージが持つそうした力について考えるためには、イメージを物理的に可能にしている支持体や、身体との関わりといった問題をさらに掘りさげる必要がある。文学・芸術と現実とは、そうした意味で、互いから逃れ去るものであるとともに、互いを包みこんでいるとも言えるだろう。

文学と芸術、そして人文科学の根底には、現実とは何であり、虚構とは何であるかという視点から捉えなおすことのできる何かがある——そのような感触を、研究会の進展を通して得た。ここで得た視点は、知ることと作りだすことの境界をめぐるひとつの仮説にすぎないが、研究開始当初の状態から見れば、問題構成をより深く捉えなおすことができるようになった。今後はこの成果を書物の形で世に問い、文学史再構築の基礎作業の足場をさらに発展させてゆく所存である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計39件（うち査読付論文 18件 / うち国際共著 20件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 Masanori Tsukamoto	4. 巻 52
2. 論文標題 Poetique de l'inhumain : De "La Desumanisation de l'art" d'Ortega y Gasset a "L'Institution" de Merleau-Ponty	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Zinbun, Annals of the Institute for Research in the Humanities	6. 最初と最後の頁 44-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野崎 歆	4. 巻 放送大学教育振興会 / NHK出版
2. 論文標題 学問分野と文章4 人文学を書く	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『日本語アカデミックライティング』（滝浦真人編）	6. 最初と最後の頁 225-243
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masanori Tsukamoto	4. 巻 345
2. 論文標題 Mishima et la poetique de l'inhumain	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Revue des Sciences Humaines	6. 最初と最後の頁 31-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Shuichiro Shiotsuka	4. 巻 345
2. 論文標題 Le quotidien et la violence : le paysage urbain chez quelques ecrivains francais contemporains	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Le quotidien au Japon et en Occident	6. 最初と最後の頁 45-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 塚本昌則	4. 巻 1165
2. 論文標題 メランコリーの織物 写真小説 論にむけて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 24-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masanori Tsukamoto	4. 巻 L'OEil d'Or
2. 論文標題 Breton au Japon, une passivite creatrice	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 La pensee-Breton. Art, magie, ecriture chez Andre Breton	6. 最初と最後の頁 313-328
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kan Nozaki	4. 巻 Piquier
2. 論文標題 "Cette esperance, la traduction" (tr. de Gerald Peloux)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Pour une autre litterature mondiale : la traduction franco-japonaise en perspective, sous la direction de Cecile Sakai et Nao Sawada	6. 最初と最後の頁 57-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 野崎 歓	4. 巻 春風社
2. 論文標題 ヴィクトル・ユゴーと映画 怪物から聖人へ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『文学とアダプテーション ヨーロッパの古典を読む』(小川公代・吉村和明編)	6. 最初と最後の頁 277-300
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塩塚秀一郎	4. 巻 水声社
2. 論文標題 物語の彼方と手前 クノーとペレックにおけるフローベールの遺産	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 松澤和宏・小倉孝誠編『フローベール 文学と 現代性 の行方』	6. 最初と最後の頁 323-339
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shuichiro Shiotsuka	4. 巻 14
2. 論文標題 Bioy Casares, source de l'imaginaire lipogrammatique	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Cahiers Georges Perec	6. 最初と最後の頁 312-322
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 塩塚秀一郎	4. 巻 24
2. 論文標題 ジュリアン・グラック『ひとつの町のかたち』における変化の肯定 モニュメントと空き地をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文学と環境	6. 最初と最後の頁 30-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shuichiro Shiotsuka	4. 巻 25.5
2. 論文標題 La potentialite des voyages contraints : Bon, Gracq, Butor	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Contemporary French and Francophone Studies	6. 最初と最後の頁 648-656
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 前之園望	4. 巻 99
2. 論文標題 アイスランドスパーの詩学 : アンドレ・ブルトンの連作ポエム=オブジェ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『人文研紀要』中央大学人文科学研究所	6. 最初と最後の頁 365-398
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masanori Tsukamoto	4. 巻 54
2. 論文標題 Le support de la lumiere : une theorie virtuelle du cinema chez Valery	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Revue de Langue et Litterature francaises	6. 最初と最後の頁 11-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00080155	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Masanori Tsukamoto	4. 巻 54
2. 論文標題 Qu'est-ce que "l'usage litteraire du langage" ? La parole a l'etat naissant chez Valery et chez Merleau-Ponty	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Revue de Langue et Litterature francaises	6. 最初と最後の頁 225-242
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00080171	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 野崎 歓	4. 巻 47
2. 論文標題 時代の流れにあらがって 大河小説の可能性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 「ユニテ」一般財団法人ロマン・ロラン研究所	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kan Nozaki	4. 巻 4
2. 論文標題 Nerval et les paradoxes sur les pyramides	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Revue Nerval	6. 最初と最後の頁 81-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 野崎 歆	4. 巻 3454
2. 論文標題 吉田喜重『贖罪』を読む	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 図書新聞	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kan Nozaki	4. 巻 Editions Piquier
2. 論文標題 Cette esperance, la traduction	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Pour une autre litterature mondiale : la traduction franco-japonaise en perspective, sous la direction de Cecile Sakai et Nao Sawada	6. 最初と最後の頁 57-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Shuichiro Shiotsuka	4. 巻 54
2. 論文標題 Le cinema comme sagesse du peuple : le melange du reel et de l'imaginaire dans Loin de Rueil de Queneau	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Revue de Langue et Litterature francaises	6. 最初と最後の頁 95-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00080161	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Marianne Oikawa-Simon	4. 巻 1093
2. 論文標題 Ilse Garnier (1927-2020), une vie dans l'espace	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Europe	6. 最初と最後の頁 317-318
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Marianne Oikawa-Simon	4. 巻 12
2. 論文標題 Le livre d'artiste, une creation en miroir - Interactions entre peintre et poete, entretien avec Michel Mousseau	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Textimage	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Marianne Oikawa-Simon	4. 巻 29
2. 論文標題 Image et ecriture	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 L'Archicube	6. 最初と最後の頁 91-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Marianne Oikawa-Simon	4. 巻 54
2. 論文標題 L'ecriture scenaristique d'Ilse Garnier : pour une poetique du cine-poeme spatialiste	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Revue de langue et de litterature francaises	6. 最初と最後の頁 107-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00080162	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nozomu Maenosono	4. 巻 54
2. 論文標題 La poetique du mapping video verbal : le cas d' Arcane 17 d' Andre Breton	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Revue de Langue et Litterature francaises	6. 最初と最後の頁 37-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00080157	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 塚本昌則	4. 巻 水声社
2. 論文標題 クレオール文学を翻訳する	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『クレオールの想像力 ネグリチュードから群島の思考へ』 (立花英裕編)	6. 最初と最後の頁 177-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 塚本昌則	4. 巻 水声社
2. 論文標題 ヴァレリーと犯罪 カトリーヌ・ポッジと「奇妙な眼差し」の形成について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『愛のディスクール ヴァレリー「恋愛書簡」の詩学』 (森本淳生・鳥山定嗣編)	6. 最初と最後の頁 217-238
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野崎 歆	4. 巻 水声社
2. 論文標題 翻訳という名の希望	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『翻訳家たちの挑戦 日仏交流から世界文学へ』 (澤田直・坂井セシル編)	6. 最初と最後の頁 285-301
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野崎 歆	4. 巻 講談社文芸文庫解説
2. 論文標題 渡辺一夫『ヒューマニズム考』解説「地下水の流れを絶やさないために」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 講談社文芸文庫	6. 最初と最後の頁 221-230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kan Nozaki	4. 巻 48号
2. 論文標題 Pour une rehabilitation de Lamartine au Japon	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立教大学 フランス文学	6. 最初と最後の頁 75-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 野崎 歆	4. 巻 7月号
2. 論文標題 ネルヴァルと夢の書物	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 すばる	6. 最初と最後の頁 256-274
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野崎 歆	4. 巻 37号
2. 論文標題 フランス文学はつねに古典である	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 kotoba	6. 最初と最後の頁 75-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野崎 歆	4. 巻 38号
2. 論文標題 寛容の精神 渡辺一夫と大江健三郎を読む	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 kotoba	6. 最初と最後の頁 120-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野崎 歆	4. 巻 37号
2. 論文標題 近代日本文学における外国語体験 翻訳のダイナミズム	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 「言語文化」(明治学院大学言語文化研究所)	6. 最初と最後の頁 51-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shuichiro Siotsuka	4. 巻 13
2. 論文標題 Le pouvoir d'evocation du lipogramme dans La Disparition - La signification de la contrainte et son evolution	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Cahiers Georges Perec	6. 最初と最後の頁 57-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Shuiciro Shitsuka	4. 巻 revue en ligne
2. 論文標題 Le parcours litteraire de Perec comme "modele structurel" du parcours artistique de quelques peintres dans La Vie mode d'emploi	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Le Cabinet d' amateur. Revue d' etudes perecquiennes	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 塩塚秀一郎	4. 巻 22号
2. 論文標題 流れからの 逸脱 が意味するもの：ジュリアン・グラック『狭い水路』における風景の呼びかけ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文学と環境	6. 最初と最後の頁 5-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塩塚秀一郎	4. 巻 32号
2. 論文標題 現代フランス文学における道行きと束縛をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『文化交流研究』（東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要）	6. 最初と最後の頁 53-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Marianne Simon-Oikawa	4. 巻 2019/2
2. 論文標題 Ilse Garnier et le livre d'artiste : Matière et construction poétique dans Winterlandschaft mit VogelIn	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Francophonie vivante ("Livres d'art, arts du livre")	6. 最初と最後の頁 133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計19件（うち招待講演 18件 / うち国際学会 9件）

1. 発表者名 野崎 歆
2. 発表標題 文学は逆転である ボードレールとフローベール、生誕200周年に寄せて
3. 学会等名 名古屋外国語大学（オンライン講演会）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Marianne Oikawa-Simon
2. 発表標題 Metamorphoses de l'écriture dans la poésie visuelle japonaise contemporaine
3. 学会等名 Première journée internationale de poésie visuelle : recherche et création, Sao Paulo (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Marianne Oikawa-Simon
2. 発表標題 Typographie, calligraphie, peinture : formes et enjeux de l'écriture dans la poésie visuelle japonaise depuis les années 1960
3. 学会等名 Écritures japonaises : concevoir des caractères typographiques, BULAC / Inalco (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Marianne Oikawa-Simon
2. 発表標題 From Edo to Meiji: Hokusai's moji-e revisited
3. 学会等名 15th Annual Conference on Asian Studies (ACAS), Palacky University Olomouc, République tchèque (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 塚本昌則
2. 発表標題 非人間の詩学 オルテガ・イ・ガセット「芸術の非人間化」からメルロ＝ポンティ「制度化」まで
3. 学会等名 「ポスト＝ヒューマンの人文学」、京都大学人文科学研究所 / アンスティチュ・フランセ関西＝京都 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Marianne Oikawa-Simon
2. 発表標題 Poemes a voir : tradition et metamorphoses de la poesie visuelle en France
3. 学会等名 上智大学 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Masanori Tsukamoto
2. 発表標題 Que veut dire "l'usage litteraire du langage"? ; La parole a l'etat naissant chez Valery et chez Merleau-Ponty
3. 学会等名 東京大学文学部主催国際コロクク"Comment Merleau-Ponty a-t-il lu Valery ; autour du cours au College de France en 1953 : "Recherches sur l'usage litteaire du langage" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本貴光、塚本昌則
2. 発表標題 これからの文学問題
3. 学会等名 神楽坂モノガタリ (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野崎歆、塚本昌則
2. 発表標題 夢の交歓
3. 学会等名 神保町ブックセンター・岩波書店 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 塚本昌則
2. 発表標題 ヴァレリーと犯罪 カトリーヌ・ポッジとの往復書簡と1920年代の変貌
3. 学会等名 人文学アカデミー2019 『愛のディスクール ポール・ヴァレリー「恋愛書簡」を読む』、京都大学人文科学研究所（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野崎 歆
2. 発表標題 フランス文化の『不思議』
3. 学会等名 NHK文化センター講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野崎歆、柴田元幸、和田忠彦、沼野恭子、松永美穂
2. 発表標題 The Joy of translation ?
3. 学会等名 東京外国語大学総合文化研究所（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野崎 歆
2. 発表標題 映画、夢のリアリズム
3. 学会等名 東京女子大学学会主催講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野崎 歓
2. 発表標題 時代の流れにあらがって 大河小説の可能性
3. 学会等名 ロマン・ロン研究所・アンスティテュ・フランセ関西-京都共催講演会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shuichiro Shiotsuka
2. 発表標題 Les methodes mathematiques et la marge pour la verve artistique dans La Vie mode d'emploi de Georges Perec
3. 学会等名 Colloque de l'APFUCC "X prend Y pour Z : litterature, contrainte et mathematiques ", University of British Columbia (Canada) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shuichiro Shiotsuka
2. 発表標題 La potentialite d'autres "contraintes existentielles " anterieures ou exteieures a l'Oulipo : Les eaux etroites (1976) de Julien Gracq et La Modification (1957) de Michel Butor
3. 学会等名 Colloque international "Les effets de l'Oulipo";, University of New England (Australia) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Marianne Simon-Oikawa
2. 発表標題 Espaces du couple : "collaboration ideale" et creation personnelle chez Ilse et Pierre Garnier
3. 学会等名 colloque international "Relire les Avant-Gardes : deux two dos zwei due " (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Marianne Simon-Oikawa
2. 発表標題 Esthetique de la "poesie habitable". Prototypes/Textes pour une architecture d' Ilse et Pierre Garnier
3. 学会等名 colloque international "Le Temps des cathedrales et ses metamorphoses dans l' oeuvre d' Ilse et Pierre Garnier";, Maison du theatre, Amiens (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Marianne Simon-Oikawa
2. 発表標題 "Umi wo koeta bijuaru poetori - Furansu to Nihon no baai"[la poesie visuelle par-dela les mers : le cas de la France et du Japon]
3. 学会等名 colloque international "Ibunka wo manabi, jibunka wo manabu - Furansu kara sekai wo kangaeru" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 塩塚秀一郎 (単著)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 書肆侃侃房	5. 総ページ数 7月刊行予定
3. 書名 それぞれの文学史 フランス文学編	

1. 著者名 塩塚秀一郎 (単著)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 230
3. 書名 レーモン・クノー 与太郎 的叡智	

1. 著者名 塚本昌則 (翻訳)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波文庫	5. 総ページ数 239
3. 書名 ヴァレリー 『ドガ ダンス デッサン』	

1. 著者名 塚本昌則 (翻訳)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 239
3. 書名 エドゥアール・グリッサン 『マホガニー 私の最期の時』	

1. 著者名 塚本昌則 (単著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 244
3. 書名 目覚めたまま見る夢 20世紀フランス文学序説	

1. 著者名 塚本昌則 (翻訳)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 339
3. 書名 ウィリアム・マルクス 『文学との訣別 近代文学はいかにして死んだのか』	

1. 著者名 Marianne Simon-Oikawa, Carole Aurouet	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Classiques Garnier, coll. "Colloques de Cerisy "	5. 総ページ数 356
3. 書名 Jacques Prevert, detonations poetiques	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	前之園 望 (Maenosono Nozomu) (20784375)	中央大学・文学部・准教授 (32641)	
研究分担者	野崎 歡 (Nozaki Kan) (60218310)	放送大学・教養学部・教授 (32508)	
研究分担者	塩塚 秀一郎 (Shiotsuka Syuichiro) (70333581)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授 (12601)	
研究分担者	M A R I A N N E S I M O N ・ O (Simon-Oikawa Marianne) (70447457)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・准教授 (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------